

豊作をもたらす石尊とうろう



夏になると、足次町の何か所かに立てられる木のとうろう。見たことあるでしょう。これは、「石尊灯籠」といって、7月27日ころから8月16日までの間立てられ、夜は明かりがともされます。

だれが立てて、だれが明かりをとますの

足次町の人たちだそうだよ。学校の近くに住んでいるお父さんやおじいちゃんに聞いてみてね。

何のために？

この灯籠は、「石尊様」(神奈川県かながわけんの阿夫利神社あふりじんじやの神様かみさま)のために立てられるものなんだよ。「石尊様」は雨を降らせてくれる神様かみさまなので、この時期にちょうどいいくらいの雨を降らせてくれれば、農作物のうさくもつは豊作ほうさくとなります。米作りをしている九小のみんなにとっても、ありがたい神様かみさまだね。ということで、「五穀豊穰ごこくほうじやう」、つまり、お米などの農作物のうさくもつがいっぱい取れるとれるようにと願いをこめて立てるものだよ。

他の地域では文化財として保護されている

埼玉さいたま県上尾市あげおしにもこの「石尊灯籠いしそんとうろう」があるのだけれども、これは、市の無形文化遺産むけいぶんかいさんに登録されているんだよ。つまり宝物たからもの。「大切にのこし残していこうね」と考えられているものだよ。わたしたちはどうしようか。